

9 Community

視聴者コミュニティ

NHK経営委員会に新たな息吹を！

新経営委員に桂敬一さん・湯山哲守さんを推薦します！

二〇〇九年一二月四日
内閣総理大臣 麻生太郎様

NHK経営委員候補者の推薦に関する

申し入れ

一経営委員の選任に当たって

開かれたNHK経営委員会をめざす会

（世話人代表：松田清 桂敬一 野中章弘）
参加団体：NHK問題京都連絡会 NHK問題
題を考える会（兵庫）NHKを
監視・激励する視聴者コミュニティ 日本ジャーナリスト会議
政治を語る会

時下、貴殿におかれましては政務にご多用の毎
日と存じます。来る二月に四名のNHK経営委
員が任期満了を迎えるのに伴い、新しい委員の選
任が行われようとしております。私たちは、さき
に視聴者主権のNHKをめざす運動の一環として
NHK経営委員の公募・推薦制と吉森重隆氏の不
再任を求める申請を行いましたが、今回、公募・
推薦話を進むる桂敬一さん（マスコミ
研究者、元東大教授）と湯山哲守さん（NHKを
監視・激励する視聴者コミュニティ共同代表・元
京都大学人間環境学研究科専任教師）のお二人を、
経営委員として推薦申し上げます。

公共放送NHKが言論・報道機関として民主上
義社会に果たす十役割を考えると、私たちはその
最高意思決定機関である経営委員会メンバーの選
出手続きに、重大な关心を持たざるを得ません。
求められるのは、選出プロセスにおける公開性と
複数者参加性であり、選出基準の明確化です。私
たちは、その選出基準を、放送法の精神に即して、
公共放送のジャーナリズム職能と文化的後援につ
いて高い見識を持ち、権力からの自主・自立を貢
げる人物かどうかに置くべきだと考えます。

伝えられるところによれば、政府は再任の二名
（多賀寺一郎、横尾悦子内閣委員）などのほか、新
たに前田晃伸・みずほファインシャルグループ社
長と桑野和泉・湯山哲守（玉の器）社長を経営
委員候補に指名し、参考商院の同意を求める方針

といいます。私たちは特定の経営委員ポストを財
界人の指定席としていたい回りする政府のこうし
た視聴者不在の委員選考のあり方に強く反対しま
す。

今回推薦した桂敬一さんは、日本におけるジャ
ーナリスト・文化人です。

長年、教壇と論壇でメディアを論じ、テレビ朝日

ナリズム研究の第一人者であり、すぐれた見識と
知性を兼ね備えたジャーナリスト・文化人です。

湯山哲守さんの略歴

一九四四年、滋賀県二島市生まれ。物理学研究
者。六四歳、六八年、京都大学理学部卒。京都市
第三大学助手、京都大学教養部・物理系教室助手、
京都大学総合人間学部助手等を経て、〇六年、京
都大学人間環境学研究科・相間環境学専攻物質相
間論座講師。〇八年定年退職。京都大学博士（理
学、二〇〇〇年に授与）。

京都大学助手時代には顧問組合副委員長を務め
た。相次ぐNHKの不祥事を機に公共放送の受信
料制度、政治との関わりに关心を寄せ、NHK視
聴者運動に参加。〇五年よりNHK問題京都連絡
会会長。〇七年一月よりNHKを監視・激励す
る視聴者コミュニティ共同代表。〇九年六月より
憲法九条京都の会会長。

主な論文：

Yoshida, T., Michishita, T., Kohno, H. and
Hosokawa, M., Analysis of Hard X-Ray Continuum
from Hot Electrons in Ryogo X-ray Torus, Journal of the Physical
Society of Japan, Vol. 55, Part 1, No. 12A, 5711-5716, 1986;

Yoshida, T., An Energy Limit of Hot Electrons
in a Ryogo Torus, Journal of the Physical
Society of Japan, Vol. 69, No. 7, 2019-2039,
2000; 「核兵器廢絶への道」(反核運動)『憲法を
活かす力とロマン』(文理閣)・「あまりにも根拠な
利法』(NHK問題京都連絡会ニュース2007)
など。

組織議会委員長を九年間にわたり務める。

専務

小説

一志

連絡先

放送を語る会事務局

小説

一志

町

二二二六

ナリズム論。主な著書は『現代の新聞』(岩波書店)、
『明治・大正のジャーナリズム』(同)、『日本の情
報化とジャーナリズム』(日本評論社)、『新報・新

聞學』(共編著)、『メディアと情報化の現在』
(同)、『新聞業界』(共編著、教育社)、『二世紀
のマスコミ・全五巻』(共編著、編集代表、大月
書店)、『情報法入門』(共著、法律文化社)、『社
会情報学ハンドブック』(共著、東京大学出版会)
など多数。

会員報告 北海道の会員が、NHK

に2年間自主自立を求めていた結果、「真摯な回答」を得ることができた。その開いの一端を紹介いただきました。

「NHK放送の自主自律」に関する

真摯な回答を得るまで

徳田伸之

「NHK放送の自主自律」に関する真摯な回答を得るまで

まで

私は日頃から「NHK放送の自主自律」と内部管理の両者は、車の両輪の関係にあると考えてきた。なぜなら、内部管理に問題があると、視聴者の不信を招くばかりか、監督官庁や立法院から横槍が入り、自主自律の放送が難しくなるからである。このようなボリュームでNHKの動きを注視してきた。

【抗議書面を出すに至った事情】

平成二十三年一月二十九日から西夜にわたりて放映されたETV特集の政治介入による番組改編問題について、四年後の二十六年一二月、NHKの当番組チーフプロジエクターの長井暁氏が、記者会見において勇気ある告発を行なった。これに先立つ同氏の内部通報に関するNHKの対応について説明する一方で、その後のNHKの姿勢や内部管理を注意深くウォッチしていた。

この間、後述のようにNHKの内部管理の社内に出会いの機会に、一八年一〇月、橋本元一會長が、抗議の内容を説明し、会長からの責任ある回答を求めた。その内容の要旨は次の通り。

【抗議の内容】

一、「NHK放送の自主自律」について一七年九月『NHK新生プラン』発表の際のテレビにおいて、橋本会長は「ETV二〇

でした」と強弁されたことは驚くべきことで、視聴者に対する誠実な態度とはいえない。

【納得の出来ない回答と福地新会長への再抗議】

二、「内部管理」について

次の四つの事例から判断するに、事務処理体制は極めて弱体であり、かつ事務処理水準も低く、内部管理体制を根本的に改善しなければ今後とも同様な処理の継続を防げない。

(一)「集金扱」への切替ミス 受信料を「口座振替扱」から「集金扱」に切替えたが、その際、NHKの手続失念により貰来どおり口座から落されたばかりか、返金するとの通知にも拘わらず、返金されずに集金人から請求されるという三重ミスに出会うことになり、NHKの内部管理体制の杜撰さを思はせられた。

(二)情報公開請求に係る誤った処理 長井氏が前述のように内訳告発前にNHKが制定したコンプライアンス通報制度により通報された内容とNHKの対応を究明すべく開示を求めたが、不聞不ばかりか、考えられないような誤った処理がなされた。

(三)不洋事や不適切な事務処理の継続 制作費着服事件を機に、「NHK倫理行動憲章」等を策定し全職員に徹底されたほか、「NHK新生プラン」を発表し、「不正を起さないための内部規律を強化」と記してあるにも拘らず、カラ山張着服事件が発生。これらは憲章・プラン等が形骸化している。

(四)コンプライアンス通報制度の実効性 前述のように、長井氏がNHK内部での通報された事項につき、NHKは誠意ある対応を怠り、具合の悪い結果となつたが、同通報制度が本来の目的である自净作用が發揮されず両解になつていて。

この抗議に対して、翌月、視聴者センターからの回答が、到底、納得できないものであったので、橋本会長へ再回答の要求と同時に受信料の支払いを停止した。

その後、一年八ヶ月経過しても回答がなく、二〇年一月、福地会長が就任されたこともあり、同年六月、改めて福地会長へ親筆で、それまでの経過説明とともに「NHK放送の自主自律」について、その可否は別として、視聴者に対する誤解と不信感を与えたことを虚心坦懐に認める真摯な言葉をお願いした。

【納得できる回答と支払再開】

これに対する回答は、会長の意を受けた回答(注)を頂き、その内容に納得できるものがあつたので、NHKの姿勢を説として、二〇年七月分から受信料の支払いを再開した。

(注)視聴者に対してお詫びするとともに、福地会長はNHKのコンプライアンスについて、「かたちを作つても魂が入つていなかつた」と、組織風土そのものを改革すべきと警鐘。そして、「あくまで不偏不党という相談はしっかりと持つていただきたい」と改めて強調されたもの。

この間、吉森経営委員長の物議を醸す発言や職員のインサイダ取引問題など引継ぎ問題山積のNHKであるが、今後とも注意深く監視して行きたいと思う。

三、「緊急情報体制」について

(略)

(NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ
ニティ会員)

2008年12月8日に内閣府へ提出した経営委員公募・推薦制と吉森委員長不再任の署名
14943筆



2008年12月1日

NHK経営委員候補

所信表明

柱 敬一

「開かれたNHK経営委員会をめざす会」の推薦に応え、同委員会委員候補となることをお受けした私を持つ難局と課題は、以下のようなものであると考える。このような私の考え方をご理解いただける方々のご支援を心からお願いします。

1. 2010年・2011年・2012年—NHKを襲う3つの危機

(1) 新法「情報通信法」がめざす「放送」の解体

早ければ2010年、「竹中懇談会」が構想、安倍政権の菅総務相の下で研究会が報告をまとめた「情報通信法」が制定され、通信と放送の境界を取り払うメディア・ビッグバンへの突入が実現する。そうなると、公益性が担保できる事業者への免許の独占的授与、集中賃貸原則の適用などを特徴とする、非市場的・競争制限的制度の産物とされてきた放送のあり方が一変する。通信と融合させられた放送は市場の産物と化され、一見自由の領域に解放されるかに見えるが、その実、無限定な自由はあり得ず、境界不明な行政の規制監督下に置かれ、国家権力からの放送の独立と自由が消失するおそれがある。一方、メディア・ビッグバンのなか、国内外の巨大な複合型の情報産業がデジタル通信技術と市場の自由を武器に放送に襲いかかり、民放だけではなく、NHKもその攻勢の前に立たされる。

(2) 地上波デジタル化完了・アナログ停波の難問

政府は2011年に地上波デジタル化の完了、アナログ放送の停波を実施するというが、現在、地デジ受信可能な受信機の普及は50%にも満たず、2年後に地デジが完了するとはとても思えない。送り手側、各放送局としてもそのころ、デジタル化の追加投資に追われているのが実情だ。NHKの資金が潤沢で、視聴者がみたがる良質のデジタル番組を大量に制作・送出、放送界共用の中継施設建設などの費用負担も買って出れば、状況変化を加速できるかも知れないが、古森経営委員長の異例の経営介入で2012年からの受信料10%引き下げ方針が決まっているから、そうすることは困難だ。一方で、家電業界はアナログ停波に伴うデジタル受信機の大量注文到来を待ち望んでいる。だが、高機能化されたデジタル受信機を使い切れない高齢者にとって、まだ使えるアナログ受信機は有用なものだ。政府とNHKは、家電業界と視聴者のどちらの方に頭を向け、この問題に対処するのか。

(3) 满3年先の受信料10%引き下げに縛られる苦しみ

2012年は、古森経営委員長の強引な協会執行部の経営計画案拒否、10%受信料引き下げ方針が実施される初年度だが、それはまた、情報通信法施行と、地デジ完了を名目とするアナログ停波とに、もろにぶつかる時期となる。メディア・ビッグバンに伴い、NHKもネット対応の事業など新規事業の拡大に迫られるが、当分収益は期待できず、投資の継続で資金需要が増加するだけだろう。また、デジタル化投資もまだ伸びていないはずだ。こうした資金需要増を前に、2012年以降の年600億円もの受信料減が控えているため、それ以前の時期では赤字が出せず、これ以降は即、資金不足に追い込まれるおそれがある。古森経営委員長の責任は重いが、その路線の見直しが必要となるのではないか。

2. 危機に乗じてNHKを変質させる政界と財界

NHKの「国営化」を目指す政府・与党：小泉政権以降、政府与党的政治はボビュリズムの色彩を濃くし、プロパガンダ・大衆化のため、メディアへの介入・操作を強める動きが強まった。NHKの従軍慰安婦問題の番組改変に対する安倍晋三・中川昭一両自民党議員の介入が好例だ。さらにNHKの人事・財政に対する影響力を及ぼす傾向が露骨になったのも目立つ。安倍政権が吉森富士フィルムホールディングス社長をいきなり経営委員長に押し込んできたことが、まず指摘できる。財政面では、安倍政権の菅総務相が、受信料を罰則付きの支払い義務制にし、値下げをせよと迫ったことが忘れられない。吉森委員長の値下げ要求はその地続きのところにあった。2012年に10%値下げを実施し、収納率が急落したら、政府はまた、罰則付き支払い義務制の法定化を求めるおそれがある。もしそうなったら、NHKは体質的に「国営放送」となってしまう。権力に対するメディアの独立、言論報道の自由を、経営基盤において失うことになる。

財界はNHKの「民営化」がぜひとも欲しい：産業界では最近、業種を問わず、大企業ほど、デジタル情報事業を自グループ内の中核的事業部門に育てようとして、有力なメディア・コンテンツ事業者との提携関係強化を図るようになっている。近年の経済連の著作権処理の簡便化・迅速化に対する政策的取り組みは、そうした事情を反映している。一方、放送、出版、娛樂などのメディア・コンテンツ事業者側も、デジタル・コンテンツ配信、ハイテク端末機器製造などに携わる有力企業と手を組みたがっている。そうしたなかでNHKは12月から、連續ドラマ「薬姫」などの人気コンテンツの有料ネット配信事業を開始した。財界はこのようなNHKの「民営化」を歓迎する。多くの野心的企業が、そこに絡み合い、NHKの膨大なコンテンツを利用する機会を見出そうとしているのだ。NHKが受信料収入以外の財源を求めるのはなるべくなるのも、そうした野心を持つ企業には、好都合のはずだ。最近のNHK役員（経営委員・理事）にはかつてみられないほど、財界主流の企業代表者・幹部が多数、顔をそろえている。それはけっして偶然の出来ではない。

3. NHKをめぐる当面の問題の望ましい解決めざす

「ETV2001」問題の本当の解決：NHK従軍慰安婦番組の改変問題は、最高裁判決で原告（YAMM-NETジャパン）敗訴と決したが、本当の解決に至っていない。原告勝訴とした高裁判決は、NHKの改変に対する政治家の影響を認めたものだったが、最高裁判決はこの点に触れず、「編集権」の字義解釈に終始しただけだったからだ。このような事実をめぐる調査・検討は本来、NHKが検証番組を作成、自ら行うべきであるのに、それが行われていない。そこで視聴者・市民団体が放送界の自主機関、BPO（放送倫理・番組向上機構）の放送倫理検証委員会にこの事案の検証と判断を行なうよう申し入れたが、NHKはBPOが審理を行うことになったら、誠実にこれ対応し、協力すべきである。

国民が知りたいことは放送せよ：11月11日、参院に招致された田母神俊雄前空自幕僚長・参考人と各党議員との一問一答を、NHKは同時中継で放送しなかった。その申し入れもしていなかった。抗議の視聴者に対して「NHKの編集権に基づく独自判断でしたことだ」と、広報担当者が応じていたが、このような姿勢は改めさせなければならない。

国際放送の国策会社化を許さない：NHKは2009年2月の事業開始を予定し、日本国際放送を設立したが、出資企業には、米マイクロソフト、NTTコミュニケーションズ、総合商社、民放4社、大手銀行・証券など13社が参加している。安倍政権下の構想では、海外向けには国策宣伝の志向が強かった。また出資者の顔ぶれからは、グローバルな情報ビジネス市場への進出が主たる関心事となりそうだ。だが、言論報道機関としての公正さを賭け、国際的な放送文化に資することを、日本国際放送はめざすべきだ。

以上

2008年12月1日

NHK経営委員候補

所信表明

湯山哲守

「開かれたNHK経営委員会をめざす会」からNHK経営委員候補に推薦されました。公共放送と視聴者・市民の間に正しく緊密な関係を実現する運動において歴史的な局面で、桂敬一さんとともに市民の候補者に選ばれたことは大変榮誉なことと身の引き締まる思いです。

女性国際戦略法廷に材を取ったETV2001の番組改ざんが政治家の圧力によるものであったことが朝日新聞と担当ディレクター自らの告白によって明らかとなった2005年1月以来、NHKに対して2つの条件を課した「受信料支払い停止運動の会」に参加したことが今日の私につながっています。07年2月、いったん2年分の受信料を遅延して支払い、それを再開して、「NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ」の共同代表の任に就きました。この都合3年10ヶ月、NHK問題京都連絡会への協力、兵庫、大阪の市民運動の方々とのさまざまな共同活動を経験しました。私たち視聴者がNHKの経営のあり方や放送内容に意見を言い、政府与党のNPOへの権力的介入には抗議を行うなどの活動はとても重要なことだと思いました。

NHKの経営に関する事では、「3ヶ月計画への意見募集」、「受信料制度の改革に関する意見募集」、「インサイダー取引」についての抗議、「参議院総務委員会における自民党議員の恫喝を受けての水田・長井両ディレクターの制作現場からの配信換え」に関する抗議、古森経営委員長のさまざまな政治的言動への抗議行動、などなどを全国的に、また京都レベル・近畿レベルで行なってきました。最近では、経営委員会が主催する「視聴者と語るイン大阪」に近畿3団体で協力して積極的に意見を述べ合う活動、第二部に起きた不適な視聴者冒頭発言の究明、大阪放送局との組織的な話し合い、などにも参加してきました。

昨年6月古森重隆氏が経営委員長に就任して以来起きた出来事は一種の「ターディー」ではないかと私は考えています。NHKの「経営」と「受信料引き下げ」に関して同じ経営委員会名だが全く異なる見解が古森氏就任少し前の3月と就任少し後の9月に出されました。経営委員12人の内、7人が同じメンバーなのにどうしてそのようなことが起きたのでしょうか。「8月見解」では経営委員会はNHKの3ヶ月計画の骨組みを基本的に承認し、「受信料引き下げ」に関しては「財政は予断は許さない」として引き下げに反対しているのに比し、「9月見解」は「6.5%の引き下げも少なすぎる」として否決し、「受信料義務化の方向」さえ示唆しました。このようなことが少数の5人が入れ替わったとたんに起きたこと自体が異常でした。NHKの自主改革については、会長の説明機関「デジタル化時代のNHK懇談会」が

2006年6月に17人の有識者による真剣な議論の末にまとめられた報告書が出されています。この答申は残念ながら、一顧だにされることなく横上げされた形になっていましたが、「公共放送を商業振興策や競争の具に使つてはならない」、「NHKの民営化や放送有料化はするべきではない」、「受信料は公共空間を活性化させる社会的コストの意味合いがある」などNHKの今後のあり方への貴重な意見が述べられています。経営委員会は、この提言を受け入れ、一度真剣に議論すべきだと私は現在でも考えています。

今期経営委員会が強引な「指導権」を発揮した問題が「会長選挙」(昨年12月)でしたが、加えて昨年秋に引き継ぐ今年秋の「3ヶ月計画」の否認、特に「受信料10%引き下げ」の強引な押しつけでした。10月の「NHK理事会案の修正可決」の場面が生き生きとしてNHK経営委員会のホームページに掲載されていますが、この件についてはどう見ても理事会側に軍配が上がると思われます。「とにかく10%」とする経営委員会に対して理事会側は「市町村民税の非課税世帯で世帯主が80歳以上は受信料免除、衛星放送付加受信料の引き下げ」を具体的に提案しています。それが何%の引き下げになるかは不明ですが今日の庶民の経済事情から考えて非常に説得力があります。経営委員会が強引に決めた「一律10%引き下げ」は昨年それを主たる理由に執行部を否認したことを引きずってメンツにこだわった無内容な決定に思われます。しかも、その強引さには次のステップに『義務化』の段階(だんじゆ)がらもついて見えます。

視聴者の声を真剣に聞くべきだと思います。その意味で希望者への訪問集金制度は復活するべきだと考えます。メールや電話などによるNHKへの「意見伝達」になじまない人々がかなり多く存在しています。600億円が集金に使われるの無駄なことと経営委員会では議論されたようですが、口座振替・クレジット等による振り込みへの切り替えはお年寄りになじまないだけでなく「視聴者の声を聞く重要な場」を消してしまうこととなるのは明白です。「NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ」は「意見公募」に意見書を提出しました(07年8月30日付及び、同12月6日付)。NHKはそれらの声を束ねたと発表していますが、しっぱなしで検討を加えたように思われません。「意見を聞く場」は「ふれあいミーティング」とする見解を練り返しているにすぎません。

私も参加してきた「監視と激励」を標榜する視聴者運動の取り組みをオーバーライズさせたもの、それは経営委員会の基本的任務につながるものと考えます。私が経営委員に選出されたなら、従来同様視聴者の立場に立って財政問題、デジタル化問題、健全なジャーナリズムへのNHKの貢献など、国民・市民の知る権利に奉仕する憲法21条の「言論・出版の自由」の立場を貫くよう歛身したいと思います。

にしなければ私にはできない。政府から金額補助されているNHKは公営にすべきです。それなら利りますが今の環境では受信料を払えない。私は年金生活者・お分かりかな!払える金がないのです。(愛知県 Oさん) ★ 古森氏の不再任を求めてます!また、公共放送を名乗るのであれば、経営への政治家の不当な介入を抑制する公募制を導入すべきです。(神奈川県 Rさん) ★ いまだにNHKはセクハラ幹部の天下り先を斡旋しています。NHKの体质を変えるためにも、経営委員会の公募・推薦と古森重隆氏の選任は必要と感じます。(大阪府 Sさん) ★ 古森氏再任絶対反対!経営委員は私たちの手で選びましょう。(京都府 Yさん) ★ 公正で信頼されるNHKを再生するため、経営委員会の改革が不可欠であると考えます。(東京都 Sさん) ★ 古森経営委員長の姿勢は、NHKを政府の広報機関と認識しているようです。この様なことではますます受信料不払い者が増大することになります。(北海道 Nさん) ★ ともうします。皆さん、がんばってください。よろしくお願いいたします。(Iさん) ★ 経営委員長古森重隆氏の不再任を求めてます。(東京都 Kさん) ★ 古森氏の不再任を求めてます!また、公共放送を名乗るのであれば、経営への政治家の不当な介入を抑制する公募制を導入すべきです。(神奈川県 Rさん)



★ NHKを愛する一人として、今回の決定により受信料収入が大幅に減少し、番組制作に悪影響を及ぼすことを非常に心配しています。わずかな値下げで番組の質を犠牲にされることは、国民はあまりに不幸と言わざるを得ません。経営委員長の古森氏は以前、NHKの番組をあまり見ないと発言していましたが、そのような人に経営委員長を務める資格があるでしょうか?こんな人を委員長に就任させた政府にも反省してほしいです。また、1日も早く削除のある受信料支払いの義務化を実現して、視聴者の不公平を解消し、その後受信料引き下げを検討すべきだと考えます。(東京都 Hさん) ★ NHKの番組については今まで疑問を言わせてもらつたが、何時までたっても変化はない。それは民間に任せることは民間に主張してきた人間も口に困せなかつたタブーです。職員の削減・深夜放送の中止・そしてあの自民党総裁選挙の報道を長時間やつたそれにNHKは總裁選挙を報道して何が悪いと答えた悪・民族はコマーシャルを流すときにNHKは「ここでミュージックを」聞きたくない音楽を流す累々ここでは関係が薄いソフトバンク対西武のプロ野球を最後まで放送する累々全ては現在の経営委員会が悪い。全てを反省して受信料を少なくとも半額以下

推薦メッセージ

「開かれたNHK経営委員会をめざす会」の経営委員候補選出について寄せられた推薦メッセージ

椎 薫 文

公共放送NHKはいま重大な転機にあると考えます。そのNHKの運営の基本方針や会長を決める事のできる経営委員会委員の選出が、政府・与党の政治的な意図に基づいて決められるには反対です。NHKの改革には法律による制度的改正も必要ですが、とりあえず当面の経営委員選出については、公募制など、視聴者の意向が反映できるような民主的でオープンな手続を求めてます。その上で転換期の公共放送の経営委員として、最もふさわしい見識と改革の意欲を持つ桂敬一・湯山哲守両氏を推薦します。

NHKは本来、視聴者の、視聴者による、視聴者のための公共放送です。N HKの財政基盤は視聴者の分担金(受信料)に依拠しています。ファミリー会社からの財政的寄付も少なく、政府からの交付金は、政府がN HKに求める国際放送の実費をまかなくとも不足するほどの僅少な額です。N HKの実態は、N P Oの一員と言えるものです。

現行の放送法によれば、建前としては視聴者が内閣や国会を通じてN HKをコントロールすると言う趣旨に見えますが、本質的には内閣や国会の間とは便宜的なフィクションにすぎないと見えるでしょう。N HKの実態は受信料を分担する視聴者が、代表者を選出し運営方針も経営人事も受信料も決めればよい、自主的で公共性の強い組織です。

実際には視聴者の代表選出が容易でないために、内閣と国会がその機能を代行しているに過ぎない、と考えます。「民意を反映する国会に任せるのがよい」という積極的支持の声も聞かれるが、政治と、政治を監視すべき相棒機関とを、同時に論じることはできないでしょう。政治的多数派が文化である放送まで支配できる仕組みは、民主主義社会にとって弊害が多いと考えます。

推薦する二人はこれまで、マスメディア全般についての豊富な知識の上で、公共放送としてのN HKのあり方について調査研究を進められ、機会あるごとに積極的に発言、行動されてきた方です。N HKに対して私がいま一番求めたいことは、政治からの独立と自由、つまり自主自律性、主体性の確立です。それに放送番組の多様性です。桂、湯山両氏は、これらの課題を実現する上で最も期待できる適任者と確信し、経営委員に推薦します。

ジャーナリスト原 寿雄(元共同通信専務理事・編集主幹)

候補者推薦運動に心から期待します

「現在、腰椎骨折で病床に伏してて、残念ながら、まとまったメッセージを差し上げられる状況はありません。

ただ、私はN HKの現状に深い憂慮をいたしております。経営委員には、政治の影響力からの独立性と、公共放送や文化・ジャーナリズムについての高い見識が資質として不可欠と考えており、それを制度的に保障する委員選任の仕組みが求められていると思います。その意味で、皆さんの候補者推薦運動に心から期待しております。ご成功を祈ります。」

川口 幹夫(元N HK会長)

NHK経営委員に桂敬一・湯山哲守両氏を

候補者として推薦いたします

一 現代の高度情報化社会の平和で自由で民主的な運営のためには「言論の自由」の確保と保障が不可欠であることはいうまでもありません。とりわけ現在の日本においては、個人の「原初的言論の自由」(ビラ配布・集会・デモ等)とマス・メディア(新聞・放送)の国家権力および大資本からの独立と自由、そして市民のための権利批判が不可欠です。なかでも公共放送・N HKには、これらが緊急に求められています。しかし、「公共放送」たる資格を疑わせる状況が、ここで例示するまでもなく近年とくに頻発・進行しています。

二 このような状況を改めるためには、まず、市民が声をあげることが必要であることは論をましません。しかし、その前提として、とりわけ公共放送・N HKの現状についての市民の「知る権利」と「意見表明の機会と権利」とが保障されていかなければなりません。残念ながら、これらは、制度的に保障されているとはいえないません。とくに、この点「経営委員会」の役割は重要であり、今こそ、市民の「目」と「声」を代表する「委員」の就任と活動が不可欠だと考えます。

三 桂敬一氏には、私の歴任大学である福岡大学や長崎県立大学でも「言論法・情報法」の講師として学生の教育にも長年携わっていただけたり、石村・坂井編著『情報法入門』や私の古希記念論文集に御論稿をいただきましたなど、研究・教育者としての誠意に敬意を抱く一員として、推薦者に名を連ねさせていただきました。

四 湯山哲守氏とはまだ面識がありませんが、「所信表明」にもお述べになつているように、「監視と激励」を標榜する視聴者運動の取り組みをオーソライズさせたもの、それは経営委員会の基本的任務につながるものと考えます、「国民・市民の知る権利に奉仕する憲法21条の「言論・出版の自由」の立場を貫くよう貢献したいと思います」との「所信」が実現されることを期待して、同氏を推薦いたします。

石村 善治(福岡大学名誉教授、言論法研究者)

NHK大好き、だから愛えて行きたい
本田洋子

OPINION①

朝一番に見る番組は「だんだん」(連ドラ)。それもせっかちな私は一番早い放送のN HK・BSで見る。その後は余韻をもって他の番組を見たいわけですが、どこも開道ワードショーです。朝からこのようなワードショーを見るに耐えないので、オススメはN HK教育番組。延々と続いている幼児のための番組。その中でも「いらないないばあ」となどは、大人の私も見て自然に微笑んでしまう。

そして夜は再びN HKの教育テレビ。先日の福祉ネットワーク(『星場は我が家で』支えて)はほんとうにいい番組だった。鹿児島で緩和ケアに取り組んでみえる医師さんのお話、ガンの末期を自宅で過ごしたい人のために痛みを和らげる治療を専門にしている医師(渡辺邦彦さん)と患者さんや家族との現場を紹介している。このような数々のよい番組を民放以上に長い期間続けているN HKをさらに「N HKは大好き」と大勢の人にも思ってもらうために現在取り組んでいるのがこの「N HKを監視・激励する視聴者コミュニティ」への参加です。昨年十一月二十二日に行われた東京でのシンポジウムと十二月十八日に行われた衆議院議員会館内で行われた「視聴者・市民の推薦候補と各界・国会議員の意見交換会」へ参加しました。これらに参加して印象的なのが元N HK議員の参加者の意見が聞けることです。十八日は偶然あの論説員としてよく見かけた小出五郎さんの意見を目の当たりで聞きました。N HKの報道は【政権報道】であり、経営委員会は「公共放送委員会」と名付けるべきだと覺悟されました。なるほどと深くうなづきました。もともとN HKの長井チヨブディレクターの内部告発から始まったN HK問題であり、その後いろいろな取り組みで私も参加してきましたので書きたいことはたくさんあります。でもひとまず終わりとします。

(N HKを監視・激励する視聴者コミュニティ会員)

論説

署名運動の到達点と現況

一市民運動から経営委員候補に推薦されての決意表明をかねて――

湯山 哲守

高橋した〇八年秋、視聴者運動

ジャーナリズム関係諸団体と共にし

昨秋、当会は全国の視聴者団体、

「NHK新経営委員の公募・推薦制」と古春重隆氏の不再任を求める署

めから「一月末締め切りまで二ヶ月間で約一五、〇〇〇筆が集められ内閣

府に届けられました。内、当会に直

接寄せられた分は二、五四六筆でした。

た。当初目標を大きく上回りました。

掲げた目標が今春到達した「古春氏

の罷免要求」六、一九〇筆を大きく超える一〇、〇〇〇筆だったので、参加団体は最初からかなり「気合い

を入れて取り組みました。署名運動

の高揚の中、「われわれ市民の中から候補を出そう」ということで、ジ

ャーナリズム論の権威である杜歌一氏を関東から、視聴者運動に広く関わって来た小生、湯山哲守を関西から

くつかの報道機関が報道してくれた結果、この署名運動は相乗的にいつそう盛り上がることとなりました。

「追い落とされた」古森氏

古森氏の「不再任」は「自ら辞退した」ことになっていますが、明らかに私たちの運動によって追い落とされたのです。今春取り組んだ「匿名運動」を土台に秋には「不再任要求」が展開され、第一段階の署名集約を経ての「〇月一六日の記者会見は大きく報道されました。この

ような中で古森氏は、一月一日、自らの「退任」を示唆しました。しかしその後任と目された「財界人予定候補」の前田晃伸みずほファンド・チャーチル社長が次期委員として不適格の烙印が野党から押され、

「NHK新経営委員の公募・推薦制」と古春重隆氏の不再任を求める署名運動を展開しました。一〇月はじめから「一月末締め切りまで二ヶ月間で約一五、〇〇〇筆が集められ内閣府に届けられました。内、当会に直

接寄せられた分は二、五四六筆でした。

た。当初目標を大きく上回りました。

掲げた目標が今春到達した「古春氏

の罷免要求」六、一九〇筆を大きく超える一〇、〇〇〇筆だったので、参加団体は最初からかなり「気合い

を入れて取り組みました。署名運動

の高揚の中、「われわれ市民の中から候補を出そう」ということで、ジ

ャーナリズム論の権威である杜歌一氏を関東から、視聴者運動に広く関わって来た小生、湯山哲守を関西から

くつかの報道機関が報道してくれた結果、この署名運動は相乗的にいつそう盛り上がることとなりました。

「古森経営委員会」への不信任

古森氏は自ら「次は自分の出番はない」として後ろ足で砂をかけるよ

うに「受信料一〇%引き下げ」を強

調査を「推進」し、記者会見で披露しに参加しました。一月一四日には

「めざす会」として先に述べた二人の

候補を「推薦」し、記者会見で披露しに参加しました。一月一四日には

「めざす会」として先に述べた二人の

候補を「推薦」し、記者会見で披露しに参加しました。一月一四日には

「めざす会」として先に述べた二人の

られません。
事態はさらに驚くべき展開を示しました。民主党がいつきよに政府の

名運動が展開され、第一段階の署

名運動を経ての「〇月一六日の記者

会見は大きく報道されました。この

ような中で古森氏は、一月一日、

自らの「退任」を示唆しました。し

かその後任と目された「財界人予

定候補」の前田晃伸みずほファイナン

シャルグループ社長が次期委員とし

て不適格の烙印が野党から押され、

「NHK新経営委員の公募・推薦制」と古春重隆氏の不再任を求める署

めから「一月末締め切りまで二ヶ月間で約一五、〇〇〇筆が集められ内閣

府に届けられました。内、当会に直

接寄せられた分は二、五四六筆でした。

た。当初目標を大きく上回りました。

掲げた目標が今春到達した「古春氏

の罷免要求」六、一九〇筆を大きく超える一〇、〇〇〇筆だったので、参加団体は最初からかなり「気合い

を入れて取り組みました。署名運動

の高揚の中、「われわれ市民の中から候補を出そう」ということで、ジ

ャーナリズム論の権威である杜歌一氏を関東から、視聴者運動に広く関わって来た小生、湯山哲守を関西から

くつかの報道機関が報道してくれた結果、この署名運動は相乗的にいつそう盛り上がることとなりました。

事態はさらに驚くべき展開を示しました。民主党がいつきよに政府の

名運動が展開され、第一段階の署

名運動を経ての「〇月一六日の記者

会見は大きく報道されました。この

ような中で古森氏は、一月一日、

自らの「退任」を示唆しました。し

かその後任と目された「財界人予

定候補」の前田晃伸みずほファイナン

シャルグループ社長が次期委員とし

て不適格の烙印が野党から押され、

「NHK新経営委員の公募・推薦制」と古春重隆氏の不再任を求める署

めから「一月末締め切りまで二ヶ月間で約一五、〇〇〇筆が集められ内閣

府に届けられました。内、当会に直

接寄せられた分は二、五四六筆でした。

た。当初目標を大きく上回りました。

掲げた目標が今春到達した「古春氏

の罷免要求」六、一九〇筆を大きく超える一〇、〇〇〇筆だったので、参加団体は最初からかなり「気合い

を入れて取り組みました。署名運動

の高揚の中、「われわれ市民の中から候補を出そう」ということで、ジ

ャーナリズム論の権威である杜歌一氏を関東から、視聴者運動に広く関わって来た小生、湯山哲守を関西から

くつかの報道機関が報道してくれた結果、この署名運動は相乗的にいつそう盛り上がることとなりました。

「公共放送に市民・視聴者の声を！」の流れは消せない

昨年末に内閣府が「名簿」を再び提出すべく準備をしていると思われます

が、国会情勢が流動的な現在の状況の中でこの「同意人事」がどうな

ります。いうなれば、古森経営委員会は「不信任」と「古森委員長への道徳的任用」と「古森委員長への道徳的任用」を受けたということではない

でしょうか。ただし二月二日に

経営委員会は、私たちの三人が選出されるまで委員長選任を行わず、

代行制でいくべきだと申し入れにまかわらず、九人で小丸成洋新委員長の選出を行っています。

市民の立場に立った経営委員の選

任を！

署名運動のもう一つの柱が「N

K経営委員の公募・推薦制」要求で

した。この一五、〇〇〇人の要求を

土官に、「開かれたNHK経営委員会をめざす会」「めざす会」、一月九日

結成）が活動を展開し、当会もそれ

に参加しました。一月一四日には

「めざす会」として先に述べた二人の

候補を「推薦」し、記者会見で披露しに参加しました。一月一四日には

前で桂、湯山の両名が「所信表明を行なうなど高揚した「会」の勢いを示しました。京都、兵庫、大阪の視聴者団体からも代表が大挙上京しそれを支えてくださいました。

「公共放送に市民・視聴者の声を！」の流れは消せない

昨年末に内閣府が「名簿」を再び提出すべく準備をしていると思われます

が、国会情勢が流動的な現在の状況の中でこの「同意人事」がどうな

ります。いうなれば、古森経営委員会は「不信任」と「古森委員長への道徳的任用」と「古森委員長への道徳的任用」を受けたということではない

でしょうか。ただし二月二日に

経営委員会は、私たちの三人が選出されるまで委員長選任を行わず、

代行制でいくべきだと申し入れにまかわらず、九人で小丸成洋新委員長の選出を行っています。

市民の立場に立った経営委員の選

任を！

署名運動のもう一つの柱が「N

K経営委員の公募・推薦制」要求で

した。この一五、〇〇〇人の要求を

土官に、「開かれたNHK経営委員会をめざす会」「めざす会」、一月九日

結成）が活動を展開し、当会もそれ

に参加しました。一月一四日には

「めざす会」として先に述べた二人の

候補を「推薦」し、記者会見で披露しに参加しました。一月一四日には

NHKを監視・激励する視聴者コミュニティの皆様、古森経営委員長再任拒否、桂・湯山両氏の推薦活動、ご苦労様ございました。

国民の知る権利を保障するための報道の自由は、報道機関が国家から独立していなければ実現しないことをつくづく感じております。子どもたちの知る権利・子どもたちが自由に成長する権利を保障するための教育の自由に対する行政機関の介入・不当な支配が推進されてきております。過去の悲惨な戦争の歴史を省みると、ジャーナリストの戦争責任と教師の戦争責任を共に考える必要があります。私は元教員の立場から、報道にも、教育にも、自主自立自由の精神と政治権力から自立できるシステムが重要であると考えます。

NHKの政治に係わる報道は、いつも政治権力に迎合していると感じざるを得ません。

自民党的組織運の時は、多くの批判が出てたようになります。自民党政員の立場から、報道局にも、NHKは自民党政員のための放送局なのか」と

言いたくなるような報道の仕方・時間の使い方に呆れました。自民党政員以外の国民には選挙権がない自民党政の組織運に、あたかも国民が自民党政の組織運を運ぶかのような偽装ぶりでした。しかし、ワーリングアラなどの特集番組やNJKスペシャル「ママはイラクに行った」・「兵士はどう扱われてきたか」など、優れた番組もあります。これらの優れた番組を報道した時は、内部で必死になって開拓努力されていました。その姿が見る上うな悪いがし、学ぶところが多く、とても感動されています。

新しい年を迎え、新自由主義改革の呪縛から世界が解き放たれて、未来への希望の切つ掛けがつかれるような時代が来るこを願いながら、皆様と共に、NJKを監視・激励するとともに、眞に子どもたちのための学校を実現するために、頑張っていただきたいと思います。

予防接種をすすめる会 片山むぎは

OPINION (2)



二〇〇八年一二月一八日

NHK経営委員 各位

開かれたNHK経営委員会をめざす会

（会話人：松田浩 桂敬一 野中真弘）

NHK問題を考える会（兵庫） NHK

NHK問題を監視・激励する視聴者コミュニティ

考える大阪の市民の会 日本ジャーナリスト会議 放送を語る会

NHK問題京都連絡会 N

NHK問題を監視・激励する視聴者コミュニティ

NHK問題大連絡会 N

NHK問題を監視・激励する視聴者コミュニティ

NHK問題を考える会（兵庫） N

NHK問題を監視・激励する視聴者コミュニティ

NHK問題を考える会（兵庫） N

要望

新経営委員長の選出にあたっての

NHK経営委員会をめざす会

（会話人：松田浩 桂敬一 野中真弘）

NHK問題を考える会（兵庫） N

こうした情勢で特段、支障がないと考
ておりません。今回も二、三ヶ月の間、この
方法を採用することで特段、支障がないと考
えられます。

② 経営委員会を全委員の合意で運営す
る以上、来年一月早々に召集される予定の通
常国会で選任される二人の委員も委員長の選
出に加わるのが民主的なプロセスです。

二、各方面から批判が絶えなかつた古森
経営委員長時代の経営委員会の運営を教訓と
して、新経営委員長には次のような委員が選
出される必要があると私たちは考えます。

① 公共放送としてのNHKと民間営利
企業との経営理念の違いを十分理解した人
物。NHKは多様な意見が交わる言論の広場
としての役割を担うものであり、視聴者へ理
解くお礼申し上げます。

伝えられるところでは、一二月二二日に開
催される次回経営委員会において、古森重隆
氏の後任の経営委員長の選出について話し合
われると向っています。改定された放送法に
よって権限が強化された経営委員会には、権
限に見合う透明な運営、視聴者の声に真摯に
耳を傾け、説明を尽くす責任がひとときも強く
求められています。経営委員会を主宰する新
経営委員長はこのような趣旨に沿つて、視聴
者主権の理念に基づき、透明で公正な手続き
の下に選出される必要があると考えます。

そこで、当会は新経営委員長の選出にあ
たって、以下の要望を申し入れます。熟慮あ
るご検討をお願いいたします。

一、新経営委員長は残る三人の経営委員
が選任され、これら委員が協議・決議に加わ
るのを待つて選出すべきです。（理由）

① かつて、石原邦夫経営委員長が母体
企業の「不祥事」の責任をとつて委員長を辞
任されたとき、新委員長が選出されるまでの

長は数多く存在）。こうした要件を棄却する
のが当然であると考えます。

四、どなたが委員長に選出されるにせよ、經
営委員会議事録が正規の記者会見の場など）

委員長就任にあたって公の場（たとえば、經
営委員会議事録が正規の記者会見の場など）

で視聴者に対して文書で所信を明らかにされ
るよう要望します。そして、その所信の中には、
当会からのこの申し入れに対する回答にあたる内
容を、形式はともあれ実質において、含むよう要
求します。

また、他の視聴者団体、個人から新経営委員長
の選出に用いて団体の申し入れがあった場合は、
適宜、それらを整理・集約した形の回答を所信に
含めていたと上う、要望いたします。

最後になりますが、近時、NHKのあり方に関
心（激励や批判）が高まる中で、視聴者を代表す
るNHK経営委員会の言動、運営のあり方にも然
る受信料の値下げではなく、多様で良質な番
組のはずです。また、NHKは国策遂行の道
具でもなければ、回論を束ねる手段でもあり
ません。このことを深く認識できること
が経営委員長に不可欠の条件です。

② 経営委員会が視聴者の代表機関とし
てNHK執行部と緊張関係を保ち、是々非々
の姿勢を貫くよう、委員会を主宰できる人物、
その際、NHK執行部が担う経営計画立案、
執行機能と経営委員会が担う議決・監督機能
の責任分担をわきまえた委員会運営ができる
人物であることも重要です。

③ NHKに対する外部からの干渉に対
し、放送の自主自立を守る姿として経営委員
会を機能させる意欲と能力を持った人物。

三、上記ような条件を備えた人物が経営
委員長にふさわしいとなれば、古森経営委員
長の選出にあたって採用された委員長の要件
— ①委員会の効率的で円滑な運営を図る
ため、東京（もしくは首都圏）に在住する委員
長の選出にあたって採用された委員長の要件
— ②経営に携わった経験がある委員 — には合

WATCH 放映

「平安京誕生」千年の都に秘められた苦闘（二〇〇九年一二月一七日）

編集子

編集子

その時歴史が動いた

「平安京誕生」千年の都に秘められた苦闘（二〇〇九年一二月一七日）

編集子

編集子

桂敬一・湯山哲守

両氏をNHK経営委員候補として
推薦する署名活動を行っています。

e-mail :

shichoshacom@yahoo.co.jp

まで、氏名・所属などを記してお知
らせ下さい。

以上

平城京が東大寺を中心とした仏教の都に変わ
るのだという最新の研究成果が紹介される。
これをどう平安京の誕生がテーマであった。さ
すがに一般の視聴者でも、「桓武天皇が七九
四年平安京を造った」くらいの基礎的知識は
あるから、何か新しい趣向でもあるのかと少
し興味を持って見た。

まず、羅城門からの「見え方」の変化から、
平城京が東大寺を中心とした仏教の都に変わ
るのだという最新の研究成果が紹介される。
これをどう平安京の誕生がテーマであった。さ
すがに一般の視聴者でも、「桓武天皇が七九
四年平安京を造った」くらいの基礎的知識は
あるから、何か新しい趣向でもあるのかと少
し興味を持って見た。

さらに平城京都の理由と長岡遷都の目的が
語られる。「水はけの悪かった平城京は衛生
状態も悪く七〇余年間で都市機能が麻痺しか
かっていた」。それに対して長岡京は、何本
の川が配設され、水はけもなく、飲料水に
も事欠かなかった」という。そんな理由で遷
都したなんて初めて聞いた。「ホント？」

ワイワイガヤガヤ

自由広場

沢田研一
力歌つた！

人間六〇年
ジヨリ祭り

落書き
ボード1

落書き
ボード2

NHKは政治的に不公平（少数政党的）
報道・無視・民放もこれに追随）！

イメージキャラクター
落書きボード2

この訪問は視聴者の皆さんが日頃感じておられる今日のマスメディアに対する感想、様々な番組に対する意見、ちょっととした感想を自由に書いていただいきたい。投稿をお待ちしています。（編）

「視聴者のみなさまと語る会～NHK経営委員とともに～in 東京」
2009年2月7日(土) 開場：午後1時30分、開会：午後2時、終了予定：午後4時 会場：千代田放送会館 2階ホールスタジオ(東京千代田区紀尾井町1-1) 出席者：NHK経営委員会 委員長職務代行者 岩崎秀史ほかNHK執行部 福地茂雄会長ほか 参加申し込み：下記URLからダウンロード
<http://www.nhk.or.jp/csa/katarukai/>

締切 1月16日(金) 必着

映されました。四五年間に編集されているのでカクトされるのは、と心配しましたが、「我が弱体」が流れて感動しました！ NHKもやるジャンルとちよび嬉しいなりました。できれば紅白歌つてほしかったが…。

『我が弱体』作詞沢田研一 作曲 大野克夫

驕しの国 日本に生まれ 誇りも感じているが
忌まわしい時代に 通るのは 賢明じやない

英豪の涙に変えて 授かれた宝だ
この弱体 救うために 声をきかせよ集え
我が弱体 守りきされたら 死十未練く上

隠しの国 日本の核が 金虫を狂わせたんだ
老いたるは無力を氣骨に変えて 岩石となろうぜ
詠めは取り返せない 過去を招くだけ
この弱体 救いたいよ 声に集め歌おう
我が弱体 守れないなら 真の平和ありえない

この弱体 敗れるのは静かに通る言葉
我が弱体 守りきりたい 許し合い 信じよう

運眉とは思えない
い港だ精闘な
声で歌ってくれ
た。感謝！（あ）

おじやるれと 忍たま乱太郎

教育テレビで夕方からやっているこの番組、とても人間的で、平和でいいよね。あの民放でやっている怪獣を蹴ったり、殴ったり、殺したりという刺激的なのとは大違い！！この番組、じっくり見ていると、とてもうまく社会が描かれている。駄菓子がいて、買うことは買うが、決して血など見せない。最後の所でずっこけて和解する。ある種社会の風刺にもなっている。もちろん、恋愛あり、いじめあり、家族愛あり。この番組を見て育った子供達が成長して、平和を乱すなんて考えられない。（あ）

もって告発されたのに、NHK当局は長井氏を左遷してしまった。未だ非を全く認めず、駄菓子が問題の台本も譲んでいたので、ずっと関心を惹いてきました。その後、朝日新聞で、番組プロデューサーの高橋哲哉氏が「世界」誌上に発表された改さん部分については、その番組を鋭撃していた、番組コメンテーターの高橋哲哉氏が

「世界」誌上に発表された改さん部分

が、その番組を鋭撃していた、

番組コメンテーターの高橋哲哉氏が

「世界」誌上に発表された改さん部分

が、その番組を鋭撃していた、

番組コメンテーターの高橋哲哉氏が